

平成29年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 作者の主旨を読み取り、自己の考えを文章で表現する力。 小集団の中で、自己の意見を発表し、考えを深める力。 常用漢字など、日常生活における基本的な能力の育成、及び、学習の定着。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に学習班(3~4人)での話し合い活動を実施する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本の定着 予習、復習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 問題練習を多く取り入れ、基礎、基本の定着をはかる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで考えようとする姿勢の育成 基礎・基本の定着 個人差が非常に大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な資料等を活用するとともに、小集団による活動の場を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識、理解力を身につける。 観察、実験の結果から考察する力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを提示し、身近な事象を話題にとり上げることで関心を高めながら、一人ひとりが考える場面をつくり、知識の定着をはかる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 読譜力や基本的な演奏技術の低下。 日常生活の中での音楽文化を知る機会の減少により、基礎的な知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現や鑑賞の活動を、その都度音楽のもつ特性を確認し、知覚・感受しながらすすめていく。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具や、はさみ・のりといった身近な道具を、安全に的確に使いこなす力の低下。 自国、諸外国の美術文化を学ぶ機会の減少。 日常生活の中に様々な美術的要素があるという視点の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術史をタイムトラベル形式で疑似体験させる授業を通して、歴史や美術文化に興味を持たせる。
保健 体育	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎運動能力が低い。 競争心が低い。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動能力が低い。 集団行動やリーダーを中心として活動する場面で、自主的に活動する習慣が身につけていない。 	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> アップ、補強運動、ダッシュ、メイン練習等で運動能力向上を図る。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補強運動を工夫し、運動能力向上を図る。
技術 ・ 家庭	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの体験の不足。プラモデルや玩具等でのものづくりの経験が不足している。 のこぎり、さしがね、げんのうなどの工具を今までほとんど経験をしていないもしくは苦手意識がある生徒が多い。 <p>(家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率よく製作するための手順を理解できない。 失敗を恐れたり依頼心が強い生徒が多い。 用具の扱い方に慣れていない生徒が多い。 	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電動工具よりも、のこぎり、やすり等手動の工具をを使う機会を増やす。 <p>(家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実物見本を使って段階的に説明し、自発的に活動できるようにする。
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> 英語以前に、文字を丁寧に書く習慣のない生徒が多数いる。 正しいつづりを覚えたり、既習の文法事項を使って英語で表現することが苦手な生徒が多い。 活動への取り組みから関心や意欲は見えるが、間違いを恐れて発言しない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に英語を書く作業を授業内に多く取り入れると共に、音読や英文を話す機会を増やす。